



「練習をしてもいろいろいるなことを自分で発見できなければ一番にならないと思います」

も自由な環境ですから、少し自由におぼれてしまい、クラブをサボった日もありました(笑)。大学は、講義を入れずに自分で休日を作ることでもできますので、そんな余裕のある日は、クラブに行かずに違うところに時間を使うこともありました。

◆一念発起

そうこうする内に、高校の時から先輩に、「毎日来て練習しないといけない。俺はこの3年間で一回しか休んでいない。一回は葬式、もう一回はで休んでいだけだ」と言われました。それで、「この人は休む理由がある時でないと休まないんだ。こんな人がいるのに、今までの自分はいったい何だったのか」と反省しました。それから一日も休んでいないと思います。前向きに練習することが、強くなることにつながっていくのだと思います。

大学2年生の夏休み。「大学生活は短く4年間しかない。1年生の時はアルバイトをしてお金を貯めたが、一瞬で使ってしまった。私の夏休みは何だったのか」と後悔した。これほど自由に自分の時間として使うことができる夏休みは、あと

三回しかない。この2ヶ月の夏休みを是非でも有効に使わなくては。朝から晩まで練習していたら、肉体的にも精神的にも強くなるはずだ」と信じ、2ヶ月間は死に物狂いで練習しました。1日8時間を目標に練習しました。朝起きると走り、柔軟、形の練習。高校へ行って後輩の指導を兼ねて拳法の練習。大学や道場での練習。西宮のボデビルジムで専門的なウエイトトレーニング。

何日か経つと、汗が口の中に入っても塩味がしない。水みたいになり、頭がくらくらしてきました。その時は高校にも練習に行っていたので、生物の授業を教えておられた日本拳法部顧問の西山先生に、「頭がふらふらするのですが」と言うと、先生が「どうした?」と聞かれたので、「朝から晩までいろんな練習をしています」と言ったところ、「塩を舐めろ」と言われました(笑)。「人間は海からできてようなのだから塩分は大切だ。汗をかかずに必要塩分は体外に排出される。出してばかりでは体から体には悪いから塩を舐めろ」と言われました。それで塩を舐めさせてもらいました。そしてすぐにシャキッとして、「塩ってこんなに効くものなのか」と感

動しました(笑)。それから頭がボーっとしてくる度に塩を舐めるようになりました。

◆大学生で全日本王者に

初めてチャンピオンになったのはいつですか。

雑古 大学4年の時に社会人も出場する全日本総合選手権大会で20年ぶり二度目の、学生のチャンピオンとなることができました。3年の時も決勝まで登り詰めましたが、最後に負けてしまったので、学生時代の良い思い出ともなり、とても嬉しかったです。

◆発見が大事

一生懸命稽古してもチャンピオンにならない人もいますが、なぜなることができたのだと思いますか。

雑古 確かに一生懸命練習してもなれない人もいます。練習を続けていてもいろいろなこと自分で発見できなければ一番にならないと思います。発見しなければならぬことはたくさんあります。

例えば高校1年の時、練習で先輩を殴りに行っても当たりませんでした。自分の突きは外されて当たらないのに、先輩の突きだけ自分に当たられるわけですね。なぜ当てるのか1年半もわかりませんでした。

今、私は高校生にカウンターパンチの打ち方を教えます。教えれば30分もしない間にみんなマスターしてしまいます。そういう具合に自分で発見するか、発見しなければならぬことを教えてくれる人がいなければ、なかなか強くなれません。しかし武道は閉鎖的なところがありますから、重要な部分はなかなか教えてもらえません。なぜかと言うと、他の人に教えることが自分の負けにつながるからです。また、自分が何年もかけて習得した技の要も、教えてしまうと数時間で何の苦勞もせず伝授してしまうからです。

確かに簡単に教えるのはもったいないです。だから、私は大学の教員になった時から、自分が知っていることはできるだけ後の世代に伝えていくべきだと思います。

い教えてきました。それが少しでも日本拳法全体のレベルアップに繋がればと願っています。

◆宗家・澤山宗梅氏と同じ道へ

関西大学卒業後はどうされましたか。

雑古 体育の教員になるため大阪体育大学の3年に編入しました。澤山先生は関西大学で教えておられたが、その後、関西大学で日本拳法をやっている教員はいませんでした。日本拳法はそもそも関西大学で生まれた武道ですから、ここで多くの学生や練習生に日本拳法の素晴らしいことを教えることは、特に意義深いことのように思えました。それで関西大学の教員になることを目指しました。

◆レスリング王者との対決

大阪体育大学ではレスリングをやっている三村和人(現在女子オリンピック選手を育成指導)という同級の編入生と仲良くなりました。それで彼と一緒にレスリングの練習をしたいたら、120kgくらいの筋骨隆々のレスリング部員に、一度拳法を教えてほしいと言われました。それで、防具を二体持ち、相手に指定された体育館に行ったら、観客がいたので驚きました。観客がいるということは拳法の全日本チャンピオンと、レスリングのチャンピオンが闘ってどちらが勝つか、というのをたぶんみんなに観てもらいたかったのだと思います。実は、その相手と私がレスリングを一緒に練習していた時、全く歯が立たなかったのです。私も74kgくらいありましたが、胸を両手で挟まれたらそのまま肩の上まで持ち上げられて、投げられてしまいます(笑)。それほど力の差がありました。でも「仕方ないな。レスリングでは負けると、突きと蹴りが加われば多少は変わってくるだろう」と思いました。私の闘い方は投げと関節技が主でしたから、それでは体格の大きな相手には勝てないので、「フエイントで突き、それから投げよう」と思い、突いてから投げ技をかけようとしたら、掴まれてヒョイと持ち上げられてポイです。さすがレスリングのチャンピオン、力の差が歴然です。「さあ、こ